

志望校に向けた学習

茗溪塾塾長 長谷 誠基

日に日に秋らしい気候になって過ごしやすくなって来ました。緊急事態宣言が解除されましたが、まだまだ油断はできません。12歳以上のワクチン接種も始まり、学習面以外での受験の準備も始まっています。10月は受験学年が面談の時期ですので、第1志望へ向けての学習と併願作戦が重要なポイントになります。面談に臨む際は出来るだけ多くの受験候補校があると色々な観点から話が出来て有効だと思います。なかなか学校へ足を運べないかもしれませんが、学校情報を出来るだけ集めておくの良いと思います。大学受験生は推薦入試が近づいてきていますので、志願理由書や面接の練習などを万全にしておきましょう。

さて、9月から志望校別特訓や過去問演習が本格的に始まりました。実際の入試問題にぶつかり、なかなか思うように点数が取れない状況にあせりを覚えている人もいるでしょう。しかし、まだ焦る必要はありません。9月に夏を整理する学習ができた人は、徐々に入試のレベルにも慣れ、解ける問題も増えてきます。もちろんやり直しの勉強は欠かさずにやるのが条件ですので、必ずやりましょう。

過去問や志望校の学習が始まると、なかなかできなくなるのが基礎固めの学習です。気をつけてほしいのは、志望校対策を中心に据えるあまり基礎固めの学習を全くやらなくなることです。どの教科にしろ、基本的な暗期の学習や復習は全くやらなくなると、覚えていたはずなのに忘れてしまったり、出来ていたはずの問題ができなくなってしまう。1週間の学習計画の中に弱点補強や基礎固めの時間を短時間で良いので、必ず入れておくよと思います。

模擬試験の結果も返ってきていると思いますが、偏差値や合格可能性だけに目が行ってしまえば模試の意味が半減してしまいます。模試は今の自分を分析する一番良い資料です。特に問題ごとの正答率の表を見て、偏差値60以上を目指すなら、正答率35%以上の問題は全てできるようにしようとか、偏差値50なら正答率50%以上をすべて身につけようとか、それぞれの目標に合わせてやりましょう。また、弱点の発見にもとても役立ちます。模試で発見した弱点を次の模試までにやり直す。これを繰り返していくことで合格に近づいていきます。